

まちと駅をつなぐ「0番線」

新山口駅表口駅前広場整備設計プロポーザル

2011.07.02 プロポーザル資料
Plants Associates Inc.

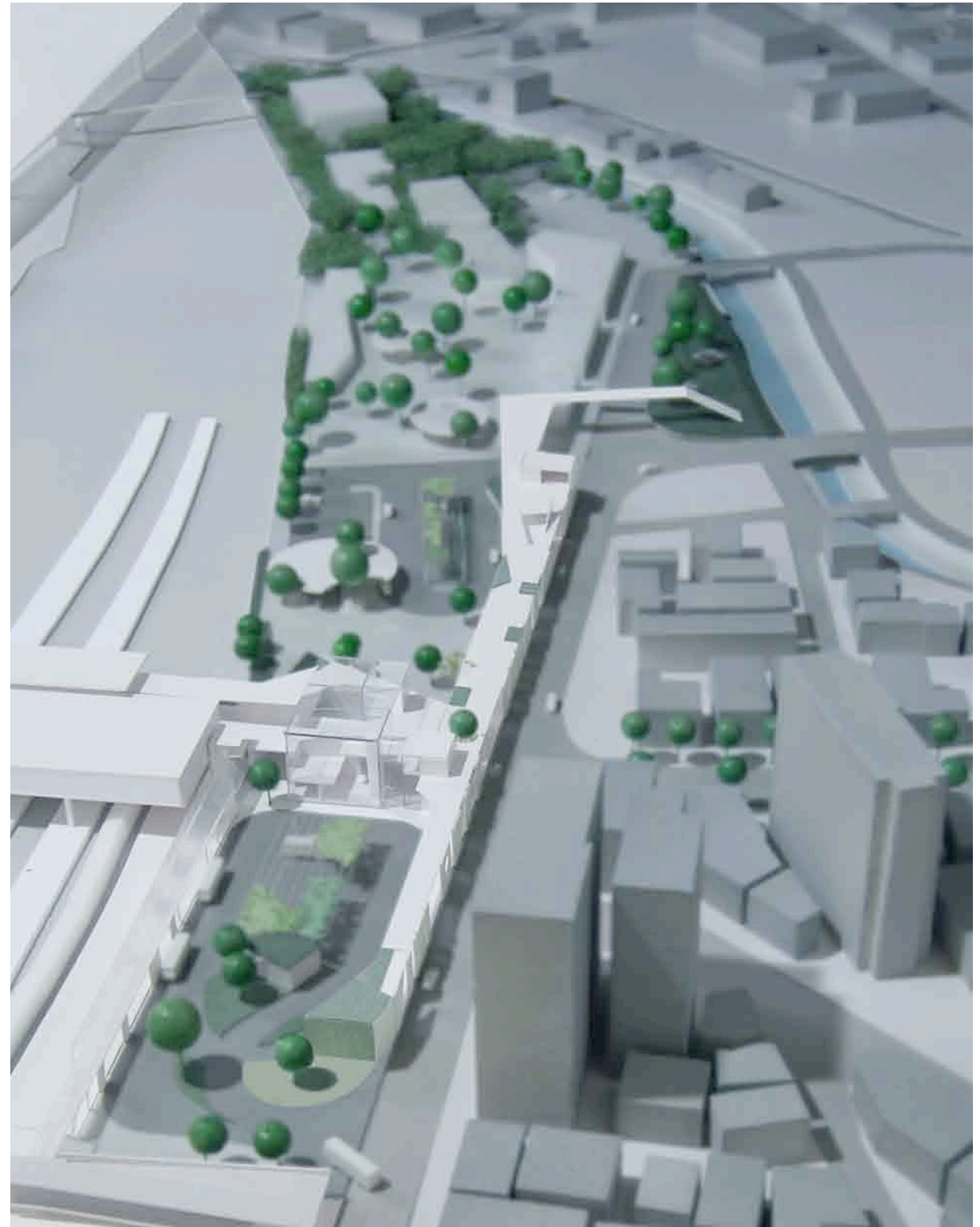
新山口駅は、S L・ディーゼル・在来線・新幹線と 4 世代にわたる鉄道が見られる全国的にも貴重な駅です。中でも S L やまぐち号は今年、累計利用者数が 200 万人に達するほどの人気で、この 3 月には昨年廃止となった旧 0 番線を改修して S L 広場が整備されました。我々は、重点エリアへと繋がる東西に長い敷地のポテンシャルを最大限に生かすべく、まちに面する文字通りのゲートウェイを計画し、それを生まれ変わった鉄道のまち山口の「0 番線」と位置づけることで、新山口駅再生のキーワードとしたいと考えました。

バス・タクシー等の自動車交通と、集い憩う人々の流れを線路に見立てることで、「0 番線」ホームから南側新幹線口までを一体の駅空間として捉え、そこに、風の並木道からのシンボル軸を取込むことで、オリジナリティあふれる風景を作り出します。まちに接する線状の歩行者空間は、駅とまちを密接に結びつけると共に、駅前広場を緩やかに囲い込むことで居心地のよい広場空間を提供します。

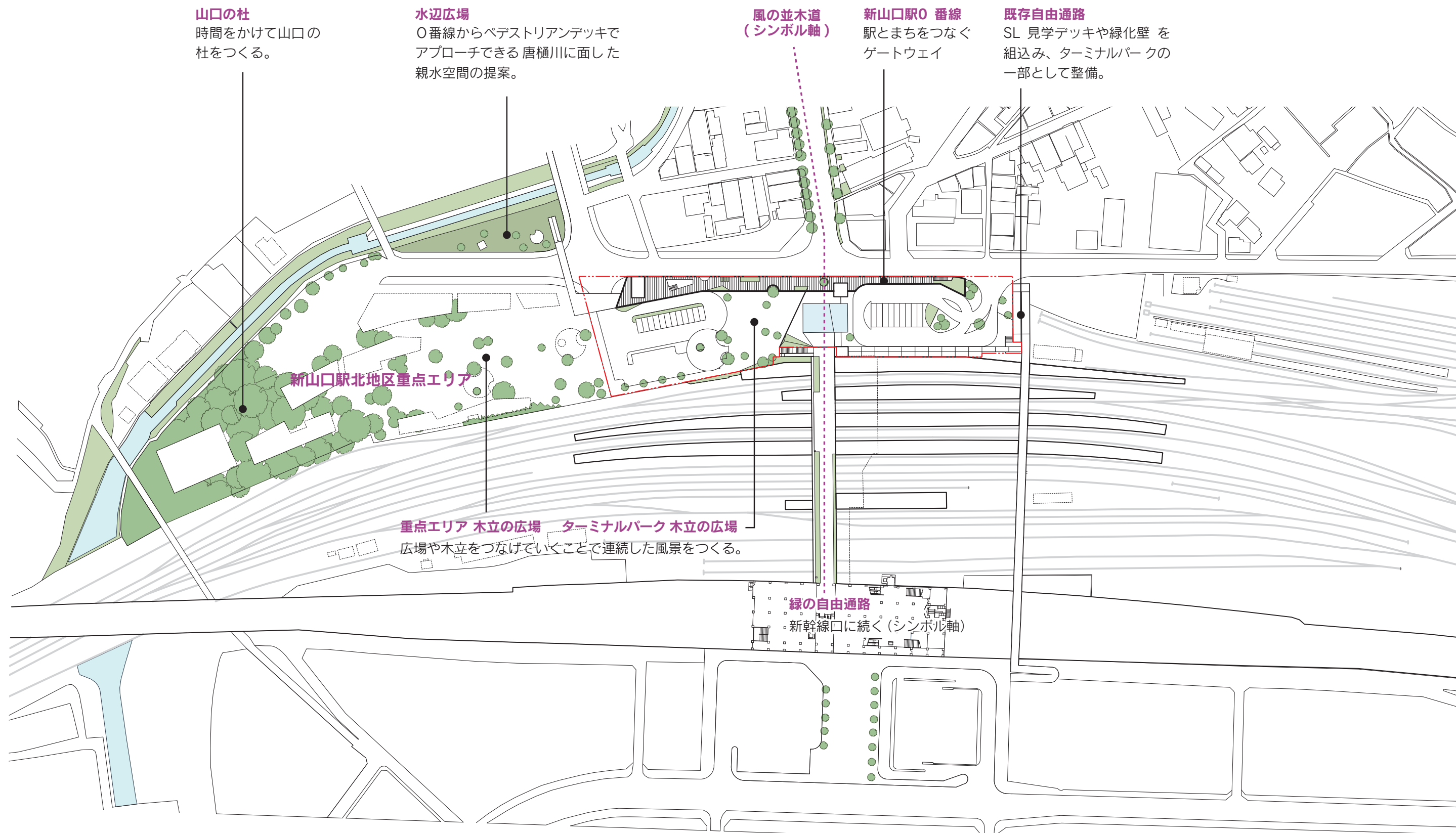
緑豊かな山々に囲まれた山口の風景は、この地を訪れる人々の心に安らぎと懐かしさを与えます。また、シンボル軸は、街路の並木や自由通路の緑化などによる緑の軸として計画されています。我々は、この「緑」こそが、21 世紀型のまちづくりを実現する上で、重要な山口のアイデンティティとなりうると考えました。シンボル軸から派生する多様な「面」としての緑が、重点エリアへと広がっていけば、小郡都市核の特徴とされる「都市と自然」「文化と環境」を象徴する風景になります。伊達政宗の推進した植林政策がやがて「杜の都仙台」へと結実したように、新たな「山口の杜」ができる時こそがターミナルパークの完成となるでしょう。新山口駅ターミナルパーク整備と重点エリア整備は、一体の敷地として捉えて相互補完的に計画を進めることが不可欠と考えます。

我々は、この「ターミナルパーク」という言葉に、単なる交通結節やアクセス機能にとどまらない、あたらしいまちづくりの可能性を感じています。その上で、「0 番線」「山口の杜」というキーワードは、鉄道のまちである小郡地区さらには山口の人々にとっても広く共有できるものであると考えます。関係者が多岐にわたり、計画自体も長期に至るまちづくりにおいて、イメージや計画の骨格をわかりやすい形で共有することは、様々な変化へ柔軟に対応できる仕組としても非常に有効です。

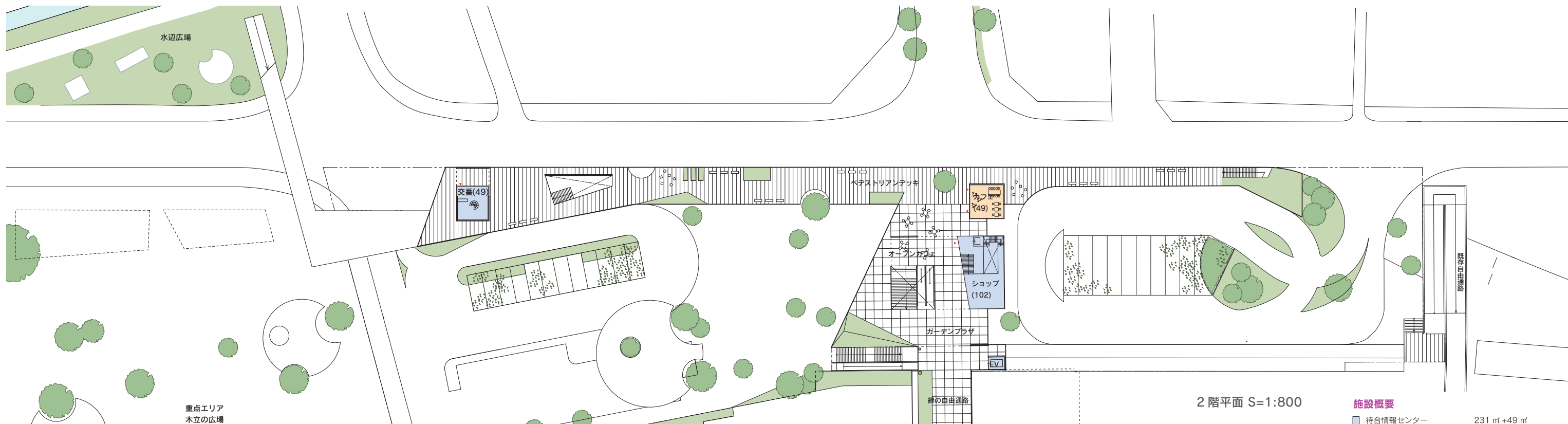
今後、関係者との協議を進めていく上では、デザイン会議やワークショップなどを通じて相互理解や市民との協働を進めていく必要があると考えますが、我々の案は、こうしたキーワードを骨格に据えることで、コンセプトを維持しながら、具体的な形状については柔軟な対応が可能です。その上で、ここでのデザインの考え方や思想が、重点エリアやさらには小郡都市核域に展開していくことで、一体的な整備が進んでいくことが理想であると考えています。



東側から望む全景



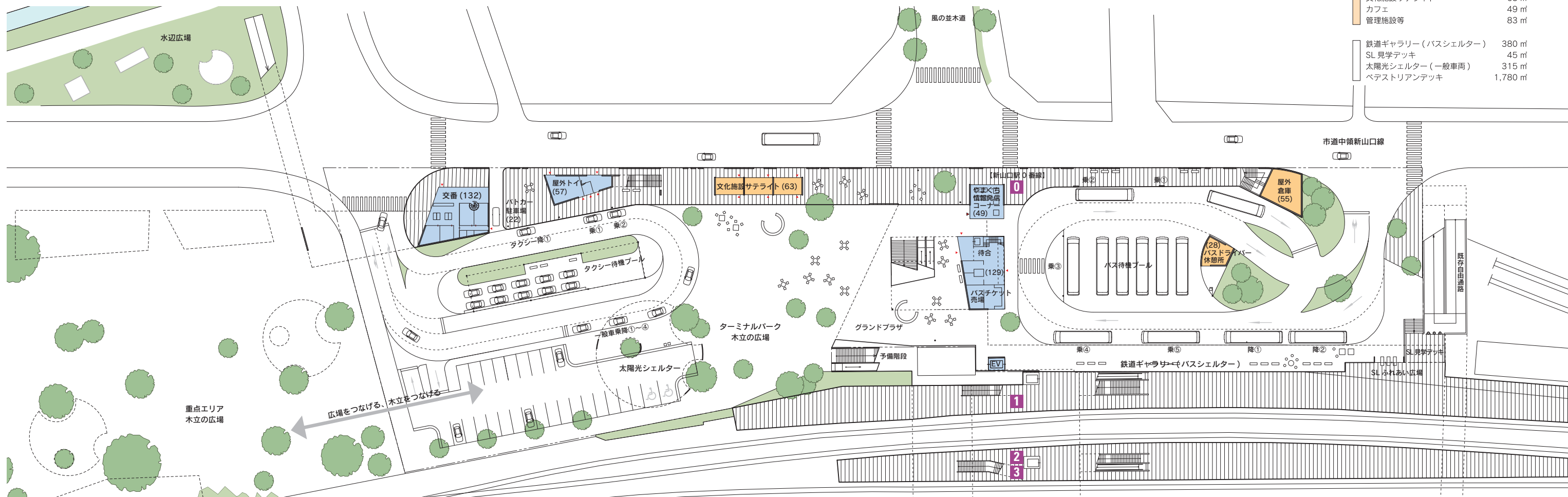
配置図 S=1:2000



2階平面 S=1:800

施設概要

待合情報センター	231 m ² + 49 m ²
交番 (バトカー駐車場含)	203 m ²
屋外トイレ	57 m ²
文化施設サテライト	63 m ²
カフェ	49 m ²
管理施設等	83 m ²
鉄道ギャラリー (バスシェルター)	380 m ²
SL 見学デッキ	45 m ²
太陽光シェルター (一般車両)	315 m ²
ペDESTリアンデッキ	1,780 m ²



1階平面 S=1:800



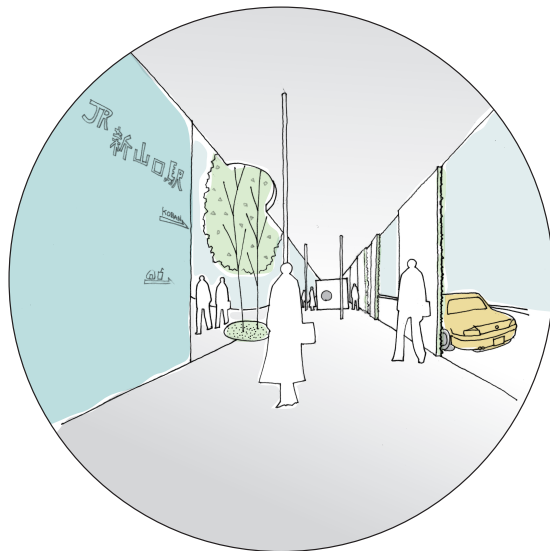
駅側から見る「O番線」は、まちとの間が緑化壁により緩やかに区切られた、半屋外の心地よい歩行者空間となります。

駅側から望む / 南側立面 S=1:800

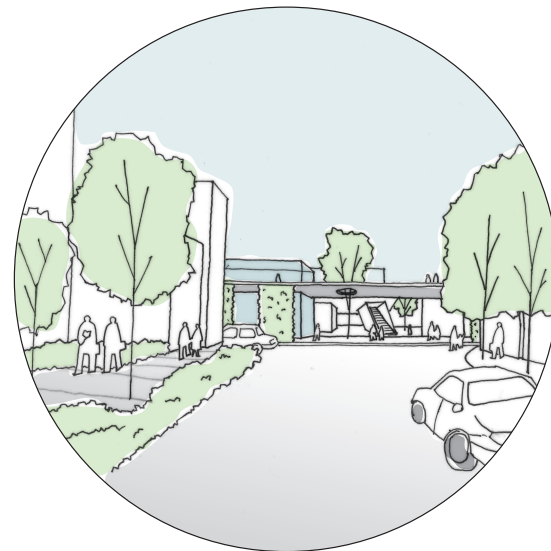


駅とまちの「接線」として東西に延びる「O番線」。緑化壁の間からプラザの賑わいがまちへと溢れ出します。

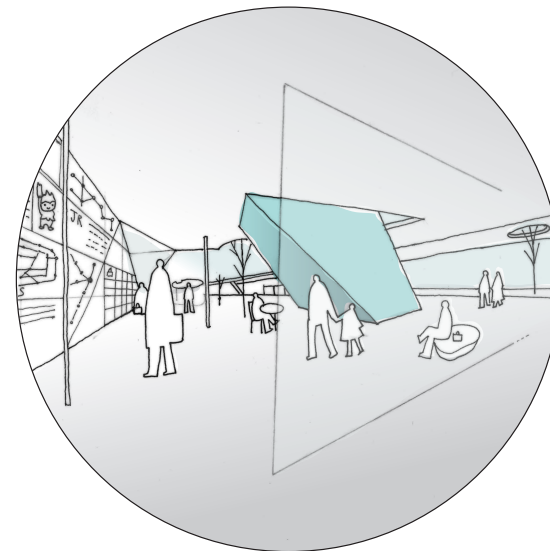
まち側から望む / 北側立面 S=1:800



O番線には様々な機能が分散的に配置され人々はまちを散策するように、買い物をしたり情報を得たりすることができます。



風の並木道から表口へのアプローチ。連続する街路樹の緑の先で、緑化壁に彩られたゲートが人々を迎えます。



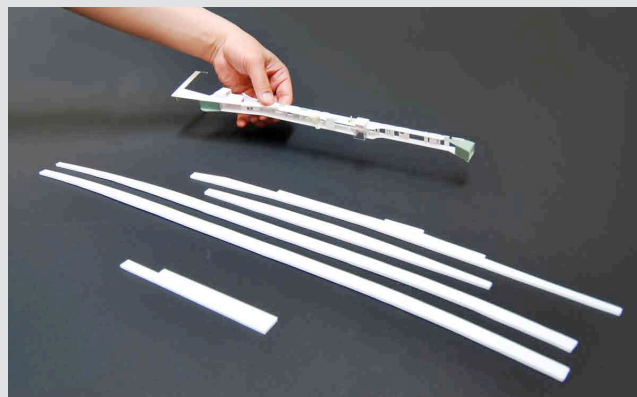
グランドプラザは、地上の動線が交差する場所であり、鉄道案内や観光案内、ロッカー、公衆電話など情報エリアにもなっています。



既存クスノキ保存

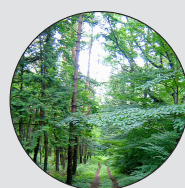
まちのゲートウェイ<新山口駅0番線ホーム>

東西に長い敷地のポテンシャルを生かし、まちとの接線を建物化することで、駅とまちの結びつきを強化します。道路に面して緑化壁が連続する線状の歩行者空間は、駅へアプローチする人々の前にゲートとしてその独特な姿を現わします。



緑あふれる駅前<自由通路から山口の杜へ>

全面的に緑化を取り入れた自由通路は全国的にも珍しく、駅の南北をつなぐ緑の軸として、シンボル軸を強化しています。この緑を、「線」から「面」に広げ、駅前に豊かな山口の杜をつくりたいと考えます。



山口の杜



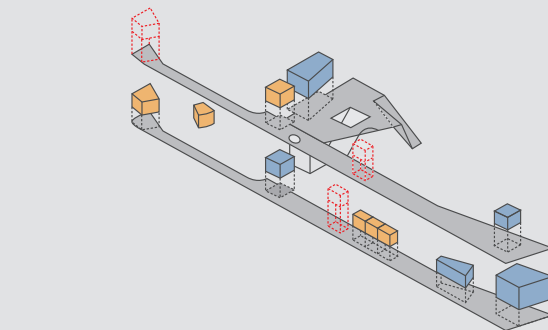
木立の広場



緑化壁

分散するキオスク<自由な配置・点在する機能>

我々は、自由通路の端部に機能を集中させるのではなく、あえて分散型の配置をとっています。移動や連絡といった機能に対応しつつ、広場を散策しながら山口の魅力に触れることもできます。日常から観光まで幅広い目的の利用者層を持つ、観光都市ならではの魅力的な空間づくりを目指します。



線
分散型配置により、将来の増築や機能変更にも柔軟に対応が可能です。

適材適所の環境計画

大掛かりな設備ではなく、人々が親しみやすい形での自然エネルギー利用を計画します。

・雨水を利用した打ち水効果：保水性舗装などの利用



・緑のスクリーン：樹木やつる性植物による天蓋で日除けをつくる（バス・タクシーの待機エリア）



・太陽光シェルター：屋根面の太陽光発電を利用して電気自動車の充電スタンドを設置



重点エリアとの相乗効果を意図した施設計画・運営計画

線路をイメージした線状の空間構成で、新山口駅から西側の重点エリアへの人の流れをつくり、緑と組合せた外構配置計画によりそれを補完します。重点エリア内にも、駅前広場に呼応する形で、広場やキオスクが作られていけば、一層の相乗効果が見込まれると考えます。

・文化施設のサテライト：市内あるいは県内の文化施設のサテライト機能を設け、人々への情報提供を行うと共に、現地へ赴ききっかけづくりを働きかける。

(例) YCAM サテライト（情報芸術センターとの連携）
文学館サテライト（中原中也や金子みすずなど県内の文学館との連携）
大内文化サテライト（大内文化に触れる）

・広場を利用したイベントの開催：ちょうちんまつりや朝市、また湯田温泉をアピールする足湯など



YCAM



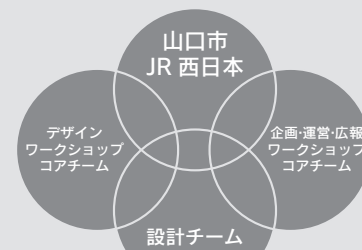
中原中也記念館



大内人形

市民との協働

今後具体的に作業を進めていく上で、重点エリア整備を含めた広域エリアの検討や調整を行うデザイン会議の開催を提案します。また、将来にわたって企画・運営や実務的な作業を行うためのコアチームには、市民と共に地域の専門家の積極的な参加を求めることで、地域に密着したきめ細やかな対応が可能な組織を目指したいと思います。



（仮称）小郡都市核デザイン会議

鉄道ギャラリー<鉄道のまちというアイデンティティ>

JRとの協働を図り、鉄道ギャラリーを整備します。SLの発車ホームが駅前広場と接しているという特質を生かして、直接ホームへアプローチ出来る見学者用「小郡口」の復活なども考えられます。

